

一、一般行政組織ト同シク大同三年一月改組セシ所ナリ、新制ニヨ
 レハ警務組織ハ(一)護衛隊ト(二)自衛團ニ分レ前者ハ旗長、旗公署
 ノ警備ヲ以テ專務トシ、後者ハ之ヲ八ヶ隊及八ヶ分隊ニ編成シ
 各々地方ニ分駐セシメ地方治安ニ任ス。其ノ編成ヲ示セハ次ノ
 如シ

一、護衛隊 1 隊長一人 1 排長二人 1 團員四〇人

二、自衛團 1

團附	上校一人	上尉一名	副官一人	中尉一名	副官一人	軍醫官一人
第一隊 (東吐莫屯)	1	1	1	1	1	1
第二隊 (後好吉吐莫屯)	1	1	1	1	1	1
第三隊 (西六家子屯)	1	1	1	1	1	1
第四隊 (煙筒山屯)	1	1	1	1	1	1
第五隊 (前排々屯)	1	1	1	1	1	1
第六隊 (恒吉屯)	1	1	1	1	1	1
第七隊 (前六家子屯)	1	1	1	1	1	1
第八隊 (三面井屯)	1	1	1	1	1	1
分隊 (好拉圖格屯)						
分隊 (公屯)						
分隊 (下和崗子屯)						
分隊 (小店子屯)						
分隊 (東哈希屯)						
分隊 (希拉哈屯)						
分隊 (巴音拈拉屯)						

註 各隊隊員五十人。本隊二十五人、分隊二十五人宛分駐ス

各隊ニ隊長（上尉）一人排長（中、少尉）二人、特務長一名

（一隊經費、食糧ヲ管掌ス）

尙改組新制ニ依レハ團長月額八十圓、以下團員月額六圓ニ至ル階級別俸給ヲ規定スト雖實際ニ於テ旗財政收入、殊ニ祖賦局收入ノ皆無状態ニ近キ折柄、隊長以下依然トシテ無給ニシテ舊制ト何等ノ變化ヲ見ス。此ノ點實ニ旗收入ノ僅少ニモ拘ラスヨク財政的ニ治安自治並旗政ノ獨立ノ可能ナリシ以所ニシテ又地方財政政策ノ見地ヨリスルモ地方保安ノ自衛化ニ關シ重要ナル示唆ヲ供セルモノト思考ス

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "註" and "各隊" visible at the top.)

(二) 治安状態

一般ニ平穩ニシテ旗内ニ蟄踞スル匪軍ヲ見ス。殊ニ蒙古匪賊ノ集團ヲナセルモノハ皆無ナルモ旗外滿人匪賊ノ時ニ旗内ニ來襲スルアリ其ノ東南境域モトノ郭爾羅斯後旗トノ接壤地ハ昔日ヨリ旗内外民間ニ亂擾紛争アリシ地ニシテ現ニ三月十四日、肇州縣、大通鎮方面ヨリ移動シ來レル匪首江東ノ率ニル滿人匪約百名、白廟子(王府東方十五支里)ニ占據スルコト數日遂ニ二十頭ノ放牧ノ馬群ヲ掠奪逃亡セルアリ、思フニ旗境外圍ノ滿人良民相率ヒテ旗民ヲ劫掠スルモノニハ非ラサルヤ

(三) 現在兵器

(1) 銃器數

- 一、官有 自衛團、護衛隊ノ有スルモノ 四五四挺 (内機關銃一挺)
- 二、民有 民間許可自衛用 三八五挺
- 計 八三九挺

但シ康徳三年三月江橋治安維持會長ニ於テ杜旗ヨリ回收セル兵

Handwritten notes in vertical columns, including the number '287' at the top right. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.

器、長銃一九七挺、小銃六〇挺、機關銃一挺計二五九挺（買上
單價四圓平均）アリ。又民間所在銃器ハ自衛用トシテ治安維持
會長ニ許可申請セシ數ニシテ此ノ外相當ノ銃器アルモノト推料
セラル。

(2) 武器入手事情

- (1) 光緒三十年哈爾濱駐在露國鐵道守備隊司令官予予ヨフ將軍ヨ
リ購入セルモノ三〇〇挺（單價三〇ルーブル）
- (2) 民國元年黑龍江省署ヨリ購入セルモノ四〇挺（單價不明）
- (3) 民國十五年黑龍江省署ヨリ購入セルモノ八〇挺（單價江洋一
五〇元）

(3) 現在彈藥數
(二) 其ノ他ハ民衆各個人ニ於テ入手セルモノナリ

一、官有	一九八三〇粒
二、民間	一一一六六粒
計	三一、九九六粒

治安維持會トノ關係

治安維持會關係ニ於テ奉康縣トハ全縣別個ニ獨立組織ヲ形成セリ
即チ大同二年陰七月江橋日本守備隊長江省城十團師司令部宣傳
隊内多耐站ニ來リ全隊官員、奉來隊長、全參事官、各鄉長各警察分
署長集合シ奉康縣トハ別個ノ治安維持會ヲ有スベキコトヲ決議シ奉
康治安維持會ニ於テハ江橋守備隊長秦泉寺三郎大尉ヲ委員長ニ旗長
ヲ副委員長、旗署有力者六名ヲ以テ委員トナセリ。旗長ノ會務處理
狀況極メテ良好ニシテ委員長ト密接ニ連絡ヲ採リ現ニ十日毎ニ江橋
ニ情報ヲ轉報セリ。

參考トシテ維持會規則ヲ譯出ス

杜旗治安維持會簡章

- 一、本簡章ハ杜爾伯特旗治安維持會事務ニ關スル必要事項ヲ規定ス
- 二、杜旗治安維持會ハ江橋守備隊長之ヲ總理ス
- 三、杜旗治安維持會ニ委員長、副委員長及委員若干名ヲ置ク
- 四、本會ハ江橋守備隊長指導ニヨリテ會内一切事務ヲ處理ス

(五) 保甲制度

杜爾伯特旗管轄保甲牌一覽表及同章程ノ規定ヲ備フルモ未タ實行シ
アラス

六、財政、金融

(一) 概 説

蒙旗王公ノ財政ハ公經濟的色彩極メテ稀薄、久シク扎薩克ノ自治、獨裁ニ委セラレ中央、地方官廳ノ監督、審計ノ外ニ在リ爲ニ租稅体系ニ於テモ會計制度ニ於テモ極メテ幼稚、原始的ナルモノアリ。特ニ杜旗ニ於ケルカ如ク建國以降三箇年ニ亘リテ民政部、興安總署ノ施政ノ間曠地帶トシテ閉却セラレシ旗ニ於テ其ノ甚シキモノアルヲ見ル。王ト旗トノ公私經濟ノ混淆シ綜合セラレタル會計帳簿ノ如キ整備セラレス況ンヤ豫決算ノ如キ形式ナク一々調査項目ニツキ概念ヲ説明シツソ其ノ口頭ヲ資料トスル情況ニテ之カ調査ニ當リテハ最モ困難ヲ感セシ所ニテ而モ適正ヲ保シ難キ所ナキ能ハス、何トナレハ調査應答ニ於テモ問題ニヨリテハコトサラニ口ヲ緘スルアリ或ハ故意ニ數字ヲ曲歪セルモノアリ、相關聯スル所、互ニ矛盾撞着スルアリテ唯杜旗財政ノ概況素描ニ止ルヘキハ遺憾トスル所ナリ。

計	收入ノ部							費 目 金	額 (國幣)
	借 款	燒 鍋 分 勞	商 舖 分 勞	草 月 分 勞	漁 業 分 勞	查 戶 口 疑	官 模		
一四六四五	一〇〇〇	八五七	七三〇	二三五	四三四五	四二二三	二六八五	五五七圓	四七
〇三	〇〇	一〇	〇〇	七一	三〇	八七	五八		

收入ノ部

大同二年度ノ支出決算表

Blank page with faint horizontal lines, likely representing the continuation of the '大同二年度ノ支出決算表' (Great Equalization 2nd Year Expenditure Final Account Table).

支出ノ部

費目	金額	備考
俸給	三、六八五圓	協理以下ノ俸給官俸ヲ當時ノ相場ニテ換算セルモノナリ
自衛費	三、七二二	
旗廟布施	二、五七六	旗公者自衛團員等ノ被服費其ノ他
旅費	三、八〇〇	
辦公費	二、四二三	
雜費	六〇五	
計	一四、八一	
	一四、八一	
	七四	

備

考

上揚收支項目ニ就キ檢討スルニソノ形式ノ素朴ニモ拘ラス其ノ中ニ財政制度ノ進化過程ト封建的制度ノ殘滓トノ相スル兩面ヲ同時ニ包藏セルヲ見ル。

(一) 進化過程ト目サルルモノニハ

(1) 逐次ニ移入、植民スル漢人トノ交通接觸ニ伴フ農産物ノ商品化、
 貨幣ノ導入セララルト共ニ、馬牛羊等ヲ以テ從來ノ物稅制度ヲ
 廢シテ貨幣稅ノ近代形式ニ移行セルコト

(2) 王公ノ經費ノ膨脹ニ伴ヒテ封地ノ開放ニ依リ、生計地ニ於ケル滿
 人小作人ノ耕作招來ニ依リ或ハ借款政策ニ依リテ財政ヲ彌縫セン
 トセルコト

(1) 經費膨脹ノ最大原因ハ一ニ王、公等主權者階級ノ生計ノ不可避
 ナル向上ニ在リテ民衆ノ爲ノ財政支出ノ擴大ニ在ラス即チ王公
 カ豪華ナル關内文化ノ洗禮ヲ受ケ漢人トノ交際ニ又自身ノ間斷
 ナキ北京ヘノ往復ニ或ハ其ノ居城王府ノ建築物ノ營造ニ費消セ
 ルモノナリ、現ニ杜旗王府建築物ハ前掲説明セル如ク調度モ纏

テ北京ヨリノ輸入品ニシテ豪華善美ヲ極メタルモノナリ。其ノ
 輸與ノ件觀ト民衆ノ殿屋斜廊トノ對照ハ斷シテ王道風景ノ調和
 美ニ非ス。

(四) 土地ノ開放ハ單ナル中央漢人勢力ノ外的強制ノミニ依ルモノニ
 非ス、實ハ旗側ニ於テモ開放ニ依ル荒價（土地拂下ケ代）ト大
 租、街基等ノ開墾地、地租收入ニ對スル財政上ノ要請カ内在シ
 居タルヲ見ル。

(ハ) 漢人小作人ノ招來、之ニヨル土地開墾ト農業收入ノ増大化及漢
 人商戸ニ對スル營業稅收入ハ重要ナル稅源ヲ爲ス。

(ニ) 借款、經費ノ膨脹ハ又借款政策ヲ不可避ナラシメ杜旗ニ於テモ
 事變前八萬五千餘元（江洋）ヲ漢人地方官廳、或ハ漢人商家ニ
 借款シ、事變以後ニ於テモ同様三千餘圓ヲ有スル事實ハ封建制
 度崩壞過程ノ財政上ニ於ケル一ツノ現レト見ルコトカ出來、
 日本ノ封建社會ノ崩壞カ單一民族内ニ於ケル特權階級ノ沒落ヲ
 意味シタルニ對シ蒙古ニ於ケルソレハ同時ニ異民族相互ノ相

ヲ意味スル所ニ其ノ複雑性アリ。

(3) 從來舊制ニ於ケル中央政府ヨリノ支給收入即チ俸米、俸銀、用賞、廩等廢止セラレ又從來收入ノ大宗タリシ開放地ノ大租、街基等旗外收入カ事變ヲ契機トシテ殆ント皆無ニ近キコト、之ニ反シテ否此ノ故ニ從來ハ特別收入即チ例外的收入、例ハ旗内住民ニ對スル賦稅收入特ニ旗内漢人ニ對スル營業稅收入カ重要視セラルルニ至リタルコトハ以テ從來ノ蒙旗財政制度ノ特質ヲ失ヘルモノト云フコトカ出來ル。此ノ傾向ハ杜旗ニ於テハ康德元年度ニ於テ生計地蒙人地主ニ對スル地租新設ノ計畫ニ於テ其ノ著シキモノアルヲ見ル。

(二) 封建的財政制度ノ殘滓ト目ササルモノニハ

(1) 札薩克ノ經濟ト旗財政トノ分科明確ナラサルコト

(2) 租稅ニ尙物稅ヲ存シ民衆ノ納稅意識ニ於テ納稅者自身ヲモ包括セ
ル團體ノ經費トシテト云ハムヨリハ王公私人ニ對スル貢物トシテ
ノ觀念強キコト、即チ納稅義務ト旗政參與權等ノ關係ハ明確ニ認

議セラレス

(3) 札幌克ノ經費支出ニ於テモ尙多分ニ民衆ニ對スル賑卹的意識強ク公經濟ニ對スル行政官廳トシテノ義務觀念ノ潜在ヲ見ス

(4) 支出款項ニ於テ王公私人ノ消費ニカカルモノ多ク例ヘハ大同二年度決算ニ於テ旅費(王ノ旅費ナリ)トシテ三、八〇〇圓。全支出額ノ二五%ヲ支出セル反面、民生ノ保育、福利施設ノ爲ノ支出トシテハ全然考慮セラレ居ラサルコト

三 財政状態

(1) 收入

前掲大同二年度收支決算表ニ就テ見ルニ收入ハ租稅收入ト借款トヲ以テ構成セラレ、租稅收入ハ分ツテ旗外稅收入ト旗内稅收入トニ大別スルコトヲ得

(1) 旗外稅收入（開放地ヨリノ收入）

蒙古地誌ニ依レハ「旗領開放地ニ對スル旗行政權、司法權ノ施行ハ其ノ地方官憲ニ委シ唯開放地住居ノ蒙古人ニ對シテノミ行政權ヲ有ス漢人ニ對シテハ貸下ケ土地ニ對シ規定ノ地租ヲ徵收スルニ止ル」即チ杜旗開放地ハ安遠、林甸、秦康三縣ニ分屬スル所ニシテ租賦局及租賦分局ヲ設置シ徵收事務ヲ辦理セリ、民國十九年度三局年收合計一九〇五二元（法洋）ナリシモノカ事變以後收入皆無ニシテ漸ク大同二年度秦康縣ヨリ五〇〇餘圓（國幣）ノ送付アリタルノミナリ。其ノ租收入減ノ原因トスル所ハ事變ノ爭亂、殊ニ匪害ニヨル民力ノ枯渴ニ在ルヘシト雖開放地各縣ノ日系指導者ノ輔導ニヨル縣政ノ刷新ト擴充、強化ニ反シテ旗政（殊ニ杜旗ノ如ク民政部管轄各省行政區劃内蒙旗）ノ閑却ニ伴フ在來蒙旗勢力ノ衰退及納稅義務者ノ大租、街基ノ如キ國稅ト地方稅トノ中間的性質ヲ有スル特殊稅ニ對スル疑惑觀念等モ亦一原因ナスモノニ非ラサルヤト思ハレル。

審核

計開安達租賦局

一、局	長	一員	日支大洋六〇元	六箇月共支三六〇元
一、經	徵員	一員	三〇元	一八〇元
一、書	記	一員	二〇元	一二〇元
一、催租	調查員	一員	二〇元	一二〇元
一、催租	兵	一員	二〇元	一二〇元
一、夫	役	一員	二〇元	一二〇元
一、厨	夫	一員	二〇元	一二〇元

一、租賦局

左ニ租賦局ノ組織並其ノ收入ニツキ概説スル

(1) 租賦局ノ組織、職員、局經費等ヲ知ル便宜トシテ左ニ民國十六年當時ノ局長ヨリ旗長ニ對スル經費ノ會計報告書ヲ原文ノ儘掲ケル

杜旗安達租賦局謹將民國十六年一月起至六月底止計六箇月開支薪公清冊呈送恭請

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text appears to be a continuation of the financial report or a related document, but the characters are too light to transcribe accurately.)

以上兩局六箇月統計支出現大洋三一六〇元

合計	一、夫	一、春	一、經	林甸分局	一、辦	一、更
	役	記	徵	員	公	夫
	一	一	一	一		一
			月支大洋三〇元		費	名
八二元	一二元	二〇元	六箇月共支一八〇元	二七八元	一〇〇元	一二元
四九二元	七二元	一二〇元		一六六八元	六〇〇元	七二元

以上

(二) 杜旗租賦局現制

(1) 駐安達租賦總局 (安達縣城ニ在リ)

局長 一人 月給 五〇圓

經徵 一 三〇圓

書記 一 二〇圓

催徵兵 四人 一人宛 一〇圓

(2) 林甸分局經徵員一名 三〇圓

催徵兵二 一人宛 一〇圓

辦公費 二〇圓

(3) 泰康文局未タ派員シラス

附記

前記現制ニ於ケル各職員給與ハ單ナル豫定ニ過キズ
現在ノ所其ノ租收入無キ爲ニ各員ハ單ニ食料ヲ給セラルルノミニテ無
給ナリ

No 306

三、租收入

租賦局收入ハ何レモ地租ニシテ大租（圃地租）街巷ノ二種ヨリナリ各
章程ニ規定スル所ニテ、税率及國家トノ分勞關係、徵收方法、之
ニヨル民國十九年度決算額等次表ノ如シ

1930

計	街差	大租			租目
		安達局	泰康局	林甸局	局名
	安達局	不 明	同 右	安達局	稅 率
	每 方 丈			每 畝、 每 年	
	一 等 七 厘			上 等 地 八 角	
	二 等 三 厘			中 等 地 五 角	
	三 等 七 毫			下 等 地 三 角	
	三 厘 五 毫			五 角	杜 旗 收 入
	一 厘 五 毫			三 角 一 八 二	國 家 收 入
	三 毫 五			一 角 九 〇 九	國 家 收 入
	三 厘 五			三 角	徵 收 方 法
	一 厘 五			角 八 一 八	納 入 時 數
	三 毫 五			角 〇 九 一	旗 收 金 額
	一 三 三 〇 三 三	收 入	二 六 三 四 八 一 六	中、下 等 地 合 計	民 國 十 九 年 度 收 入 額
	一 九 〇 五 三 二 九 四 六	ナ シ	三 九 四 三 四 三	一 三 七 八 二 二 三	

杜旗租賦局分劈規定並二民國十九年度收入表

備考

一、上掲表中ノ金額ハ總テ法洋ニヨル、即チ法洋一元ハ江錢三九〇吊、
江錢一、二〇〇吊ヲ以テ國幣一元トス、
要スルニ民國十九年度總收入法洋約二萬元
現在收入ハ前述スル如ク事變以後殆ント皆無狀態ニ在リシカ大同二年度
ニ至リ奉天縣ヨリ大租五〇〇餘圓及安達局ヨリ街蓋一〇〇餘圓（江洋）
ノ輸送アリタルノミナリ

税目	官類	査戸繰
税	毎年毎翠杖一台 (三十時一四十時) 官類二石四斗、内二 石ヲ王府ニ四斗ヲ正 副族長ニ各二斗宛歸 屬セシム	毎年普通小作人江洋 毎翠杖一台一六元 江洋 同 右一三元
納税義務者	地主又ハ小 作人但シ榜 青ヲ除ク (小作契約 ニヨリ小作 人ノ納税義務ヲ有スル モノ多シ)	同 右
納税期	百陰曆十月 至陰曆十一 月	陰曆三月中 旬
納入方法	各族長ニ 納入ス	旗号ヨリ 戸口調査 釐土地開 墾状況調 査員ヲ派 スル際發 收ス
平均年收額	九四〇石 (殆ト谷子)	三八〇〇餘元 (江洋)
備考	毎年 二十五石 内外ノ滞納 アリ	滞納者少ナ ク極貧階級 ノモノハ免 除ス 康徳元年度 ヨリ廢止ノ 豫定

(四) 旗内稅收入
杜旗旗内稅制表

羊草播	魚 底魚	編 程	商 賃 租
毎万一台四元(江洋)	一、魚價安キトキ 捕魚者ヲシテ賣却 セシメ代價ノ十分 ノ三ヲ分勞ス 二、魚價高キトキ 捕魚現物ノ十分ノ 三ヲ分勞ス	毎年 一、二〇〇元(江洋)	毎年 一等、毎戸五〇元江洋 二等、三五元、 三等、三〇元、
地主、小作 人ノ區別ナ ク刈收者ニ 課ス	漁 業 者	管 業 者 (漁人)	漁 人 商 家
陰曆七月頃	陰曆十月中 旬以降	納 入 額 一 定 セ ス	陰 曆 三 月
現場ニ人 ヲ派シテ 徴收ス	徴 收 員 漁 業 ニ 臨 ミ テ 徴 收 ス	金 錢 又 ハ 酒 現 物 、 或 ハ 雜 貨 等 ノ 購 入 代 價 ト 差 引 ク	
二三五元 (江洋)	十萬斤 四五〇〇元 (國幣)	一 戸 一、二〇〇元	一 等 六 戸 二 等 八 戸 三 等 五 戸 計 七 三 〇 元
		二 戸 ア ル モ 一 戸 ハ 新 開 業 ニ 懸 リ 未 タ 徴 税 セ ス	漁 業 者 ナ シ

上掲税額ニ依ル大同二年度（自一月一日、至十二月末日ヲ以テ會計年度トス）ノ收ス決算額左ノ如シ

<p>養兵糧</p>	<p>每犁杖一台一石二斗（粗糧）</p>	<p>本旗南方ノ地主小作人ヨリ</p>	<p>南方地方ノ自給保衛團ノ伙食馬糞トシテ</p>	<p>大同元年度 一〇〇石</p>	<p>南方ハ熟地多キ故ニ此ノ地方ヨリ徴收セルモ大同元年度ノ徴收シ大同二年度廢止セリ</p>
------------	----------------------	---------------------	---------------------------	-----------------------	---

合計	羊草捐	捕魚劈成	燒鍋租	商舖租	查戶錢	官糧	稅目
一三〇四七	二三五	四三四五	八五七	七三〇	四二三三	二六四五元	年收金額(國幣)
五六	七一	三〇	一〇	〇〇	八七	五八	備考
						官糧(谷子)ヲ以テ換算セルモノ一石二元五十錢相場	

大同二年度杜旗旗内稅收入

四 借 款

(一) 事 變 前

(1) 七〇〇〇〇餘元 (江洋) 黑龍江署ニシテ (民國元年以爲)

(2) 六〇〇〇〇餘元 () 省城商家、瑞慶和ニ對シ (自民國十五

至十七年、訴訟費)

(3) 七〇〇〇〇餘元 () 江省司令部ヨリ槍、彈子購入代價

(二) 事 變 後

(1) 三六〇〇〇餘元 () 程司令ヨリ彈子購入代價

(2) 一〇〇〇〇餘元 (國幣) 旗内燒鍋舖公興水ニ對シテ、

合計 江洋 八六〇〇〇元

國幣 一〇〇〇〇元

№ 314

(3) 支出

概説ノ部ニ於テ既述セル所、茲ニハ其ノ項目、金額ヲ表示スルニ止ル

費目	金額(國幣)	雜費	旅費	辦公費	自衛團費	旗廟布施費	俸給費
合計	一四八一	六〇五	三八〇〇	二四二三	二七二二	二五七六	二六八五
	六四	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇六	五八
							管員給糧ヲ國幣ニ換算セルモノナリ

大同二年度支出決算額

日金融

金融機關トシテハ銀行、油房、或ハ棧等無キモ少數ノ漢人雜貨商ト
燒鍋アリ、時ニ燒鍋「公興永」ハ其ノ開店古ク唯一ノ旗内小額金融機
關タリ

旗内流通貨ノ總數ハ不明ナルモ其ノ種類及國幣一元ニ對スル換算率ヲ
示セハ次ノ如シ

- 一、江洋（最多）換算率 一元四〇
- 二、江鏡 一、六八〇吊
- 三、哈洋 一、元二五
- 四、國幣（最少）

七 司法制度

- (1) 一般準據法トシテハ「理藩院則例」ヲ踏襲セリ
- (2) 裁判 豫審ハ管旗章京、印務札蘭、印務梅倫カ共同審理シ正式裁判ハ札薩克、協理、管旗章京（札薩カ裁判長）カ共同シテ之ヲ行フ、但シ判決言渡ハ札薩克之ヲ爲サス
- (3) 法廷 印務處
- (4) 民事事件ハ旗民カ未タ權利關係ニ對スル自覺ノ幼稚ナルト、土地關係ニ於テ生計地ハ民衆ニ於テ賣買、抵當權設定等ノ法律行爲ヲ禁シラレ居ル關係上複雑ナル問題ノ繫起ヲ見ス、爲ニ札薩克ニ於テ適當ニ和解ヲ行ハシムルコト多シ、
- (5) 刑事事件ニ付テハ從來ハ豫審ヲ行ヒテ案件ハ江省督軍ノ方ニ送付セリト云フモ現在ハ札薩克ノ獨裁スル所ナリ、
- (6) 蒙人、滿人ノ民族的涉外事件ハ從來ハ江省ノ方ニ送付セリト云フモ現在ハ札薩克ノ獨裁スル所ナルカ如シ
- (7) 旗内民カ旗外民ヨリ起訴セラレタル場合ハ從來ハ起訴者側ヨリ江省

ニ書類ヲ提出シ江省ヨリノ杜旗ニ對スル書類轉送ヲ俟テテ被告ヲ江省ニ引渡シ江省ヨリ起訴所屬縣旗ニ送ル規定ナリシト云フモ實際上ノ取扱ニ就テハ疑問ナキ能ハス、況ヤ現在ノ處理方法ニ關シテハ明ナラスト雖モ旗内鎮國行政ヨリ見テ札薩克獨裁ナリト思考セラレ

八、交通、通信

(1) 道路

道路ハ現王府ヲ中心トシテ四方ニ通スルモノ一面坦々タル平原ニシテ車馬ノ通行セシ所、即道ヲ生シタルモノ、道路ノ築造セルモノナク橋梁ノ架構セルモノナク水濠アレハ輒迂迴ス、宛然原始ノ姿其ノ儘ナリ

左圖ハ幹線道路網ヲ示セルモノ、凍結期ハ到ル處車馬、自動車ノ通行可能ナリ。

(2) 王府ト旗外、殊ニ鐵道各驛トノ連絡狀況
鐵路連絡表（王府ヨリ）

備考

一、交通機關ハ冬季、夏季ニヨリテ趣ヲ異ニシ夏季ハ嫩江ノ水脈アル爲メ昂昂溪道ヲ除クノ外自動車ヲ通セス、又自動車モ定期的ナルモノナクシテ冬季結氷期ニ限り泰來縣城内民營「水利汽車行」ノ貸切自動車アリ、

二、距離上ヨリハ泰來道最モ有利ナレトモ(1)嫩江ノ障害ト(2)泰來縣(滿人縣)ヲ通過セサルヘカラサルニ理由ニヨリ現在旗民ノ交通上最モ緊密ナル關係ヲ有スルモノハ寧ロ江橋ナリ、

連絡驛	所屬縣	里數	交通機關	備考
江橋	泰來縣	一三〇支里	小車、馬背車、(自動車)	
泰來	・	一一〇	・	
昂昂溪	龍江縣	二一五	・	夏季ニテモ降雨ナキトキハ自動車ヲ通ス
小子	泰康縣	一六〇	・	

(3) 河川ノ交通上ノ價值
 (一) 嫩江

毎年陰曆六、七月ノ氾濫期ニ於テハ時ニ兩岸二十支里ニ亘リテ江水漲滿シ隨所ニ泡子ヲ形成ス。十月初旬結氷ヲ開始、十月中旬以降氷上通行可能トナリ而シテ翌年二、三月ノ交ニ於テ江開ク、結氷最厚七尺、最モ薄キモ四尺ニ達シ又江水ノ最深ハ二丈五尺ニ及フ、

夏季四月下旬ヨリ九月初旬ニ至ル間ハ汽船、帆船共ニ哈爾濱ヨリ扶餘、大賚ニ寄港シ江橋ヲ以テ終航地トナス、然ルニ杜旗ニハ寄港地ナキヲ以テ旗民ニ取ツテハ嫩江ノ水脈ハ交通上比較的價值少シ、ノミナラス夏季江ノ漲水期ニ於テハ兩岸十五支里ニ亘リテ濕地トナリ交通ヲ阻害スルコト夥シキモノアリ、將來沿江各縣旗共同事業トシテ又ハ他ノ方法ニヨリテ小發動機船ノ航行ヲ經營セハ交通上、保安上民衆ノ便益尠カラサルヘキヲ思フ現在兩岸ノ連絡ニハ公屯（杜旗岸蒙古部落）ト朝爾登（泰來縣

蒙古部落)トノ間ニ「善船」ト稱スル無錢渡船アルノミ。

(二)烏爾爾河 舟楫ノ便皆無

(4) 通信

(一) 電信ノ便ナシ、必要アレハ泰來ニ至リ打電ス

(二) 電話、民衆用、警備用共ニナシ

(三) 郵便、秦康縣管轄ノ「多爾站」ニ郵便局代辦處(雜貨商「信和隆」經營)アリテ直接ニ泰來ニ又他爾哈、古魯站ヲ經テ大賚ニ各地向
信書及書留ノ送達可能ナルノミ、

九 教育、衛生

(一) 概況

一般ニ教育ハ極メテ不振、當局者ノ報告ニ依レハ全旗民中、蒙古文ヲ解スル者百分ノ七十、滿文ヲ解スル者百分ノ十アリト雖モ現總務科長（前協理）ニシテ尙滿文ヲ手寫シ、讀解スル能ハサル状態ナリ在來ハ教育ト云ヘハ主トシテ語學（滿語）ニシテ各私塾トモ滿人教師ヲ聘シテ塾主トシ居ル情勢ナルモ建國後滿洲國政府ニ興安總署等ノ設ケラレテ蒙人ニ對スル登龍門開ケ其ノ先覺有爲ノ士ヲ待望スルアルニ刺戟セラレテ青年間ニ好學熱勃興シ日語ヲ獨習スルモノ多ク既ニ片語ヲ解スル者アルヲ見ル。

(二) 教育機關

(1) 學校

16322

唯一ノ小學校カ百辛又干屯、王府構内ニ在リ、民國十九年ノ設立ニ懸リ初高二級制ニシテ學生數十七、八名學生平均年齡十一才

十五才。經費年二千四百餘元（法洋）ヲ要シタリシカ事變後ノ財政逼迫ノ爲メ二年前ヨリ閉鎖セリ

(2) 私塾

一族ニ一處以上全旗内ニ十處アリ

塾生一處ニ平均十五名一二十名

塾主ハ多ク漢人ニシテ教授科目トシテハ第一ニ滿洲現代語會話、讀解、書、算數ナリ

授業料、一定セサルモ教師一人七、八十圓、多キハ百圓ナルモノアリ、塾生均分負擔ス。

私塾ハ實ニ現在スル唯一ノ教育機關ニシテ且ツ地方ニ普遍ニ散在セル關係上學生ノ就學ノ便宜ヨリ見ルモ旗民一般ノ教化上ノ價値ハ見逃スヘカラス、地域廣大ニシテ然モ人口割合ニ稀薄ナル當地方ニ於ケル教育機關トシテ着日指導スヘキモノナリ。

(3) 遊學狀況

主トシテ齊々哈爾ニ遊學シ、現ニ旗出身者ニシテ黑龍江省興安第一職業學校ニ學フ者十名餘アリ。

(三) 衛生

(1) 滿人醫師一名軍醫トシテ旗公署費ヲ以テ聘セリ、現在モ排々爾屯ニ住シ施療ハ無料ヲ原則トス。

(2) 喇嘛、喇嘛ニシテ醫療ヲ爲ス者七名アリ。

(3) 風土病、人体ノ風土病無キモ、牛馬ノ疫病ノ流行スルコトアリ。

十、宗教

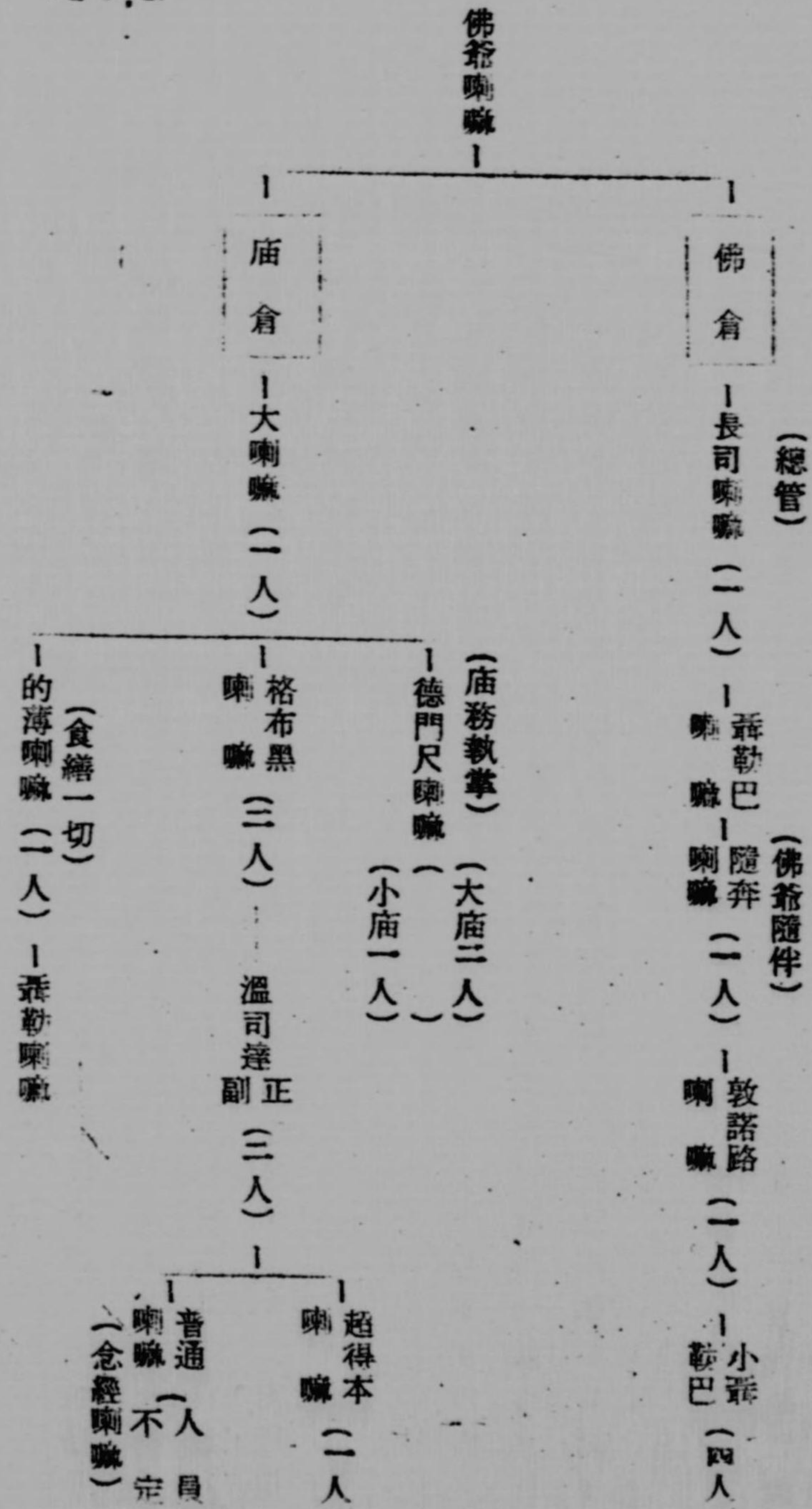
(一) 概説

喇嘛教ニシテキリスト教寺院等ナシ、喇嘛寺庙數合計十一處、僧數二百餘人、其ノ生活依存關係ヨリ區別スレハ一般布施ニヨリ生活スル者十分ノ六、自産生活十分ノ一、出身家ヨリノ供給

ニヨリ生活スル者十分ノ三。而シテ他旗喇嘛僧カ西藏文ニテ念
スルニ反シテ本旗廟ニ於テハ總テ之ヲ蒙古文ニ翻譯シテ念誦セル
ハ其ノ特徴ナリ、
其ノ寺廟組織ハ佛倉、廟倉ニ二大別セラレ其ノ各系統大約次表
如シ

No 326

(二) 廟 組 織



三 大 廟

旗廟ニシテ旗王以下全旗ノ信仰スル處、王府ノ東南方十五支里、有水有樹ノ地ニ在リ、僧數、七十餘人、廟有地二百天地、馬、二十、牛三十、羊百餘ヲ所有シ外ニ旗王以下旗民ヨリノ布施アリ。

四 「チャバガンチ」

平民婦女ニシテ六十才、七十才ノ間蓬髮シ佛爺喇嘛ヨリ法ヲ受ケテ修道ニ入りシモノヲ謂フ、寺廟ニ入ラス自家ニテ修身シ、台寺（貴族）ノ婦女ハ「チャバガンチ」タルコトヲ禁セラル。

十一、社會階級制度

- (一) 台吉、旗王一族ノ貴族階級ナリ、多クハ地主ニシテ又旗署或ハ地方ノ要職ニ在リテ統治階級ヲナス、總數ニ、五〇〇餘人
- (二) 喇嘛、唯一ノ不生産階級ナリ近年一般民ノ喇嘛ニ對スル觀念改變セラレツツアリ現在青少年ニシテ喇嘛タリ、又ハ之ヲ志スル者激減セリ、總數二〇〇餘人

(三) 甲筋丁、平民階級ニシテ農牧シ兵役(自衛團)ニ服ス、

(四) 奴隸、民國十八年悉ク(總數二〇〇餘名)ヲ解放セリト謂フ、

但シ現在尙五、六ノ台吉ニシテ一戸當リ五、六人ヲ所有スルモノアルカ如キモ生殺ノ權ヲ有スルカ如キ昔日ノ強力ナル隸屬關係ニ在ラス、勞力ニ對スル報酬無キ程度ノモノナリ。

(五) 尙爲政者階級ノ身分別統計ヲ示セハ次表ノ如シ。

十二、農 業

(一) 土地形態

(1) 生計地ノ性質

生計地ハ旗ノ原有封土中未開放ニ殘サレタル地域ニシテ其ノ上ニ尙蒙旗王公ト旗民トノ關係ニ於テ從前封建的行政關係ノ殘滓ヲ多分ニ負載セル土地デアル。

杜旗現在ノ生計地面積ハ約九十五萬晌ニシテ開放前ノ旗總面積二百二十五萬晌中四二%（一説「蒙地」ニ依レハ全面積百二十五萬晌、生計地八十七萬晌）ニ相當ス、其ノ開放沿革ニ關シテハ既述セル所ナルモ清初順治五年初メテ中央政府ヨリ管旗王ノ「封地」トシテ現定セラレタル所ニシテ爾來旗王即チ札薩克ハ國家ノ行政機關トシテテハナク國家ト旗民トノ中間的存在トシテ大体ニ於テ外交、軍事ヲ除ク外内等中央政府ノ掣肘ヲ受クルコトナク強力ナル封建政治ヲ遂行セシモノナリ、民國トナリ、滿洲國トナリテモ法令關係トハ別ニ實際上ハ從前通り自治領トシテ統治シツツアリ、即チ國家ニ對シテ

土地税ヲ負擔スル等ノコトモナク對旗外のニハ旗王ノ領土トシテノ色彩今尙濃厚ナルヲ見ル。其ノ對內的諸關係ヲ檢討スルニ旗王ハ其ノ生計地其ノモノニ對シテモ尙自由ナル處分權能ヲ有セス、生計地内ノ特別ノ私用^{旗王}地トシテ規定セラレタル六〇〇响（小作人九戸ヲ分作セシメツツアリ）ニ對シテモ同上ノ制約ヲ附セラレテ居リ、更ニ該土地ノ旗王私人ニ對スル經濟的價值關係ヨリ觀察スルモ旗民同族^{平等}ハ開墾並耕作ノ權利ヲ享有ス。

私法關係ニ於テ之ヲ管旗王公私人ノ所有地（「蒙地」）ト見ルヘキカ、又ハ當該蒙古旗族ナル身分的條件ヲ構成要素トシ旗王ニ依リテ統制代表セラルル氏族團體ノ共有地（或ハ總有地）（「滿洲經濟年報」大上氏）ト觀念スルヲ妥當トスヘキカ茲ニ連續ヲ許サスト雖モ尠トモ旗民ノ主觀ニ於イテハ前者タルノ觀念強ク隨ツテ土地ニ對スル旗王ノ管轄治理權ナル一種ノ權利ヲ確認スルコトハ滿洲國トシテノ蒙地整理ニ於テ最少限度ノ前提ナラサルヘカラスト思料ス。尙レニシテモ多分ニゲルマン法色彩濃厚ナル蒙古ノ民族社會、從ツ

テ其ノ土地關係ヲ資本主義的ロイマ法的ナル法律概念ヲ以テ説明セムトスルコトハ大ナル誤謬ヲ侵ス虞アルヘク要ハ土地形態ヲ基底トスル蒙古社會ノ崩壞或ハ進化ノ兩過程ニ於ケル現段階ノ把握ト滿洲國ノ地政策ノ樹立ヲ俟チテ逐次整理セラルヘキモノナリト信ス。

(2) 生計地ニ於ケル一般人民ノ土地權

一般ニ旗地ニ對シテ土地私有權ヲ認メラレス、即チ賣買、抵當權設ク等ノ處分權能ヲ有セス單ナル使用、收益權ヲ有スルノミ、然シテ(一)耕地ト荒無地(權利客体ニ依ル區別)、(二)原旗人、外旗人、漢人(權利主体ニ依ル區別)ノ別ニヨリテ差異アリ、

(1) 農耕地(開墾地)

農耕地ニ對スル用益權ハ在來土着ノ旗人ニノミ許容サレタル特權ニシテ移入外旗人、漢人ハ共ニ此ノ權利ヲ享有セス、而シテ此ノ特權ハ更ニ細分スレハ開墾權(未耕地ヲ自由ニ開墾スルノ權)ト用益權(自己ノ開墾地ヲ引續キ使用收益スルノ權)ニ分ルヘキモ果シテ本來的ニ具有スル權利ナリヤ或ハ王公ノ單ナル許容ノ反映ニ過キサレ

モノナリヤ疑問無キ能ハス又ソレ等ノ用從權ヲゲルマン法ニ所謂下級所有權 (Drohungsberechtigung) ト見ルヘキヤ等ノ問題ニ關シテハ爾後ノ研鑽ニ俟ツヘシ

(四) 荒蕪地其ノ他

未開墾ノ地、河川、水濠、泡子等ハ權利客体トシテ從前ハ開墾ニト同様ノ取扱ヲ受ケタルモノナルカ外旗人、漢人ノ移入ニ伴ヒソノ等ノ新來者ニモ入會權ヲ許容セラレ放牧或ハ漁業等ニ於テ原旗人ノ様ニ待遇セラル、即チ未開墾地ハ其ノ使用收益ニ於テ旗民ノ總有ニ似タリ。

16 3.34

参 考
蒙地ノ法律の性質ニ關シ「蒙地」(滿鐵調査課)ニ述フル所次ノ
如シ

一、蒙地ノ公法上ノ性質

「蒙古王公ハ旗人トシテ清帝ノ軍事大權ニ統率セララルモ其ノ領地ニ對シテハ領土權ヲ有シ領土權ノ作用トシテ土地人民ヲ支配シタルモノトス、若夫レ清朝カ賜フニ封爵ノ榮ヲ以テシ繫クニ姻戚ノ好ヲ以テセルカ如キハ宛然封建諸侯ト君主トノ間ニ行ハレタル政略ニ外ナラス。○○○○」

二、蒙地ノ私法上ノ性質

「要之蒙古各王公地ハ私法上三種ノ主體ニ歸屬ス(一)開放地以外(注、生計地)ハ各王公ノ所有地ナリ、(二)開放地ハ滿漢人ニ永租權ヲ設定シタルモノニシテ王公ノ所有權ハ尙王公ニ保留セラルルモノト看做スヘキモノナレトモ後ニ述フルカ如ク永租權ハ事實所有權ト異ルナキヲ以テ一定漢人ニ開放セラレタル土地ハ永遠ニ之ヲ回復スルノ途ナク王公ノ所有權ハ其ノ作用ヲ復活スルコトナキモノトス、(三)開放地界内ニ於テ蒙民ニ劃留シタル土地ハ蒙民ノ所有ニ屬ス、開放地附近ニ於テ蒙民ニ劃給セラレタル土地亦同シ」

(二)、耕地分布状態

耕地大約五萬畧ト稱セラレ、旗ノ南部即チ五六七各旗區内ニ多ク且東部、泰康縣境方面ニ少シ、且西界嫩江方面ハ一面ノ低地ニシテ土地肥沃ナルモ水害ヲ蒙ルコト多ク爲ニ農民ハ各所ニ點在セル丘岡乾燥地帯ヲ選定シテ住居シテ其ノ周圍ニ耕作セル状態ニシテ嫩江ノ氾濫ヲシテ治ムルコトヲ得ハ更ニ曠大ナル沃地ヲ得ヘシ。

(三)、農民

農業生産組織ハ一、地主ニ普通小作人、三、榜青、四、農業労働者ヲ以テ形成セラレ生産体トシテノ農奴ノ如キハ現在ハ解消セリ但シ家事ニ關スル産役トシテノ奴隸ハ極少數ナルモ現存スルモノノ如シ以下各項ニツキ説明スヘシ。

(1) 地主

(イ) 性質

地主タルコトハ原旗人ノ唯一ノ特權ナルモ其ノ反面土地ニ對スル權利ハ私有性極メテ稀薄ナルモノニシテ地券ヲ有ヤス、旗王

(2) 普通小作人

(1) 小作契約ノ内容

ノ土地墾帳ニ登録セラルルノミ(毎年二月播種期ニ於テ旗府ヨ
リ人ヲ派シテ開墾状態ヲ檢シ登録ス)賣買、或ハ擔保權ノ設定
等ヲ禁止セラル。

(四) 土地配分状況

一戸當リ面積最少二十响ヨリ最大一千响ニ及フ平均面積八百五
六十响ナリ。

(五) 公課

現在ノ處地主カ直接土地ニ關シテ負擔ナルモノナシ然シテ本旗
康徳元年度ニ於テ地主ニ對シテモ等シク左ノ如キ地稅ヲ課徴ス
ヘク計畫セリ。

稅率 上等地每响銀幣六角

中 四角

下 二角

ココニ普通小作人ト規定セルハ次ニ述フル榜青制度ニ對シテノ意味ナリ。小作契約ニ關シテハ基準トスヘキ一定規則ナク慣習ニ依リ自由ニ當事者間ニ於テ契約内容ヲ決定スルモノナルカ永小作ノ制度無ク且其ノ期間モ概ネ短小ニシテ流民ト稱スルモノ如キハ一年毎ニ收穫ヲ終ヘテ歸嚮往來ス、蓋シ私人ノ土地ニ對スル權利ノ強化化ヲ防止セムトセシ土地政策ノ派生的現レト見ル事カ出來ル。臨地調査ノ當時恰モ春耕期ヲ控ヘテ小作契約ノ更新期ニ當リ兒女、或ハ權籍其ノ他ノ家財一切ヲ牛馬車ニ塔載シテ新シキ地主ヲ求メテ移轉スル小作人ノ多キヲ目撃セリ。

(四) 小作料

犁杖一臺（面積三十响乃至四十响）ニツキ

上等地 一〇石

中等地 七、八石

下等地 四、五石

即チ作分ノ方法ニ依ラス定租ニ依ル、

又家屋、井ハ地主ノ負擔スル所ニシテ農具、車馬、耕作用雜費等ハ小作人ニ於テ負擔スル所ナリ。

公課

旗外旗内蒙古人小作人、漢人小作人ヲ問ハス小作人ヨリ官粮二石四斗、益戸錢每犁杖一臺洋江六元ヲ徵收ス、即チ後述榜青ト共ニ地租負擔階級ナリ。

(3) 榜青

性質

榜青トハ種、資金、農具、車馬等ノ農耕用具ヲ所有セサル無資力者ニシテ耕作期間中相手方ヨリ生活必需品ノ供給ヲ受ケ、勞力ノミヲ以テ直接地主ニ、又ハ小作人ニ小作スル者ヲ云フ、其ノ性質ニ於テ極メテ農業勞働者の色彩多キモ、單ナル雇傭關係ニ非スシテ收穫物ニ對シ地主ト共ニ天候其ノ他ノ危險ヲ負擔シ後述スル如ク收穫物ノ總量ニ對シテ半分ノ取分權ヲ有スル點ヨリ觀察スルモ小作トシテ規定セラルヘキモノナリ。

尙本旗榜青數ハ現在數約七百餘戸、昔日小作人ト云ヘハ多ク榜青ナリシモ次第ニ産ヲ爲シテ普通小作人ノ地位ヲ獲得セルモノ多シ。

㊦ 小作料

小作料ハ地主ト收穫高ヲ折半ス、近隣各旗ニ於ケル榜青ノ取分カ十分ノ三内外ナルニ比シテ好條件ナリ。

㊧ 公課

毎戸江洋三元ヲ旗署ヨリノ戸口調査ノ際納入ス。

㊨ 農業労働者

明治年五十元其ノ發生沿革ヨリ見レハモトノ農奴ノ解放セラレタルモノ多キモ總數ニ於テ未タ生産ニ重要ナルモノニ非ス。

No 344.

種類	年產額 (一畝當收穫)	單價 (每一石國幣)	金額
粟	五〇〇〇〇石 (三石)	二元〇〇	一〇〇〇〇〇元
高粱	一、二〇〇〇石 (三石)	二元五〇	三〇〇〇〇元
大豆	一〇〇〇〇石 (三石)	五元〇〇	五〇〇〇〇元
稗子	一五〇〇〇石 (三石)	三元〇〇	四五〇〇〇元
麻子	三二五〇石 (三石)	三元〇〇	六七〇〇元
芝麻	二五〇石	三元〇〇	七五〇元
合計			二、三二、四五〇元

(四) 主要農產物並年產額

Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side of the document.

No 34-2

(四) 農産物市場

一、輸出先

冬季、昂昂溪

三、泰來

三、小子

夏季、昂昂溪

三、小子

三、三月二十四日泰來ニ於ケル穀物相場

大豆 一石 五圓二〇 (壹幣)

高粱 二圓八〇

粟 四圓八〇

燕 五圓〇〇

大豆	一石	五圓二〇
高粱		二圓八〇
粟		四圓八〇
燕		五圓〇〇

其ノ他産物

一、鹽

旗内、哈爾木倫泡、烏什吐泡、布口里泡ノ三泡子ヨリ産出ス、年額約三〇〇〇餘斤、蒙民互ニ分配シ、旗外ニ賣ルコトヲ禁ス。

二、曹達

二個ノ泡子ヨリ産ス、額不明
毎年旗外搬出二〇〇餘車、每車三元金額六〇〇元（種幣）

三、羊草

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including numbers and characters.)

十四、漁業

(一) 沿革

從來遼江漁業權ハ沿江各族ノ台吉ニ屬セシ所ナルカ大同元年度ヨリ之ヲ旗營ニ回收セリ

(二) 漁業者

昔古人三戸（大房一處）
漢人十二戸（大房六處）（多耐站、他如哈站居住漢人ナリ）
網房主人ヲ日網戸達ト稱シ冬罾繁忙期ハ各戸多數ノ機網工人ヲ
雇傭シ總數二百名ニ達ス。其ノ工賃一日銀幣五十錢内外、漁獲
多キトキハ外ニ一日二、三十錢ヲ割増シ給與シ、罾終レハ解雇
ス。

夏季閑散期ニ在リテハ看屋子（小屋舎人）ヲ置クノミ
漁業者ニ對スル公課

杜旗管内漁場ニ於テ捕魚搬出スル者ニ對シテハ漁期王府ヨリ現

地ニ人ヲ派シテ直接ニ徵稅ス、其ノ稅率、十分ノ三ヲ分劈スルモノニシテ魚價比較的高騰セルトキハ捕獲魚現物其ノモノヲ以テシ、魚價安キトキハ賣上代金ヲ以テス。

(三) 漁場ノ配分關係

對岸泰來縣(扎旗)トノ漁場ノ配分關係ハ從來慣習ニ依リテ極メテ素朴ナル方法ニ依レルモノニシテ江流ノ屈折狀態ニ依リテ札旗沿岸坎高クシテ水深ク魚巢ヲ爲シ杜旗沿岸水淺クシテ沙灘ヲナセルカ如キ個所ハ全体的ニ杜旗側ノ漁場ニシテ水深兩岸ニ於テ平均セル個所ハ兩旗ニ於テ漁場ヲ折半ス、而シテ現在杜旗ニ屬スル漁場合計三十一處アリ、

(四) 漁獲方法

漁期ハ陰曆十一月(小雪後)翌年正月中旬ニ至ル漁撈方法トシテハ漁網ヲ用ヒ、下圖ニ示ス如ク氷上ニ圖ニ小孔ヲ穿テ下網眼ヨリ網ヲ投下シ其ノ兩端ヲ(1)(1)、(2)(2)ノ孔順ニ擴張シテ出網眼ニ至ル、カクシテ魚ヲ取り卷キテ袋網中ニ入レ出網眼ヨリ抽

出ス

一組ノ網ヲ、ク二百餘名ノ工人ヲ要シ、魚獲多キトキハ一網ヨリ
小車百餘車、少キモ二十餘車、平均五十餘車ヲ普通トス、魚多キ
トキハ投網ヨリ引上ケル迄五日ヲ要ス。

(三) 魚種、魚獲高金額

魚種トシテハ鱒頭魚、鱒、鯉、白魚、草根魚其ノ他雜魚

之ヲ上、中ノ三種ニ分チ年平均產額及金額ヲ示セハ次ノ如シ

(多キハ年十七、八萬斤、少キモ六、七萬斤ヲ下ラス)

上等魚(總量ノ十分ノ一) 一〇〇〇〇斤 單價每斤江洋五錢 金額 五〇〇元

中等魚() 十分ノ四) 四〇〇〇〇斤 四錢 一、六〇〇元

下等魚() 十分ノ五) 六〇〇〇〇斤 二錢五厘 一、五〇〇元

合計() 一一〇〇〇〇斤 三、六〇〇元

仕向先、奉天、小窩子驛ニ搬出シ南ハ四平街(大部分)、奉天、大遼、錦州、北ハ齊々哈爾、克山方面ニ向フ

附 記

水産業ノ統制ニ關シテハ實業部ニ於テ其ノ方法研究中ノ處ニシテ
北滿ノソレカ管轄機關トシテハルピンニ北滿漁業局ノ設立ヲ見ル
ヘシト聞クモ從來嫩江ノ水産ハ沿江住民ニ取ツテハ重大ナル生活
ノ問題ニシテ近代的漁撈方法ノ導入ニ就キテニ在來ノ沿江漁民ノ
生活權其ノモノヲ脅威シ或ハ剝奪スルカ如キモノナルヘカラス、
況ンヤ日系利權會社ノ手ニ委スル如キハ將來斷乎トシテ排除セラ
ルヘキモノナリト思料ス。

No. 351.

參

考

意

見

参考意見

將來杜旗行政ノ整理ニ關スル意見

一、地方行政改革ニ伴フ蒙旗行政ノ整理

(一) 興安總署官制(大同元年三月九日教令第十一號)

第一條 興安總署ハ國務院ニ隸屬シ興安省ニ關スル一般行政事務

ヲ管掌シ並別ニ定ムル地域内ノ蒙古旗務ニ關シテ國務院

理ヲ輔佐ス(大同元年第六八號改正)

以下略

(二) 興安總署官制第一條ノ別ニ定ムル地域劃定ニ關スル件

(大同元年六月廿七日教令第四十號)

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ興安總署官制第一條ノ別ニ定ムル地域劃

定ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布施行ヤシム

興安總署官制第一條ノ別ニ定ムル地域トハ左記條旗區域ヲ謂フ

但シ興安省ニ屬スル地域ハ之ヲ除ク

一、奉天省

齊々哈爾八旗

黑爾根八旗

(三) 齊齊務整理委員會官制 (大同元年六月廿七日 敕令第四十一號)

第一條 本委員會ハ興安總署ノ管理ニ屬シ敕令第四十號ニ依リ定

メラレタル地域ニ於ケル舊蒙古旗務ノ整理ニ關シ總長ノ

諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得 (大同元年第七三號

改正)

以下略

以上ノ如ク興安省外蒙旗ノ整理ニ關シ法令ノ公布ヲ見タリト雖モ實
際上ニ於イテハ舊蒙務整理委員會ナルモノハ委員ノ任命サヘモ見サ
ルヲ以テ有名無實ナルノミナラス且省境外蒙旗問題ノ中核ヲナス熱
河省整備工作ノ完了ニモ拘ラス該省内蒙旗ニ關シ如上法令ノ擴張援
用ヤラルルモノモナク今日ニ至ツテ興安省外各蒙旗ハ全然建國政治
工作外ニ取り殘サレタル存在タリ、今次ノ地方制度改革ハ之ニ對シ
根本對策ヲ講スヘキ好機タルヘク本問題ニ關シテハ各省ニ熱河省

内務旗調査ノ完成ヲ俟チテ改稿別述スヘシ

註。民政部總務司「地方制度改革ニ伴フ旗行政機構改革案」参照

ノコト

ニ杜爾伯特旗政獨立問題

泰康縣ヨリ杜爾伯特旗ヲ獨立セシメ旗行政ヲ施行スルヲ適當ト思料ス

之カ理由ニ歸シテハ蒙旗自治行政ノ特質ト地方行政單位トシテノ該旗ノ獨立ノ可能性如何ノ二面ヨリノ觀察カ可能テアル

(一)蒙旗自治行政ノ特質ト其ノ必要性

此ノ問題ハ滿洲帝國ノ總策方針トシテハ興安總署ノ設置ト其ノ現左ト云フ事實ニ依リ既ニ一應檢討解決済ミノ問題テアル、該署カ其ノ負荷要請セラルル重大使命ヲ如何ナル程度ニ遂行シツツアリヤ、又ハ其ノ組織機構カ之カ遂行ニ適マリア否ヤ等ノ問題ノ再吟味ハ別トシテ苟モ興安總署ナル蒙旗自治ノ機關ヲ設クル限り興安省外蒙旗ヲ之ト別個ニ取扱ヒテ民族ノ旗政獲得ノ要望ニモ拘ラス

民政部縣治行政ノ強行ヲ必要トスル事情ヲ見出シ得ナイ。

ノミナラス蒙古民族ノ内部關係ニ於ケル其ノ差別待遇ニ對スル不
 合理ヲ解明シ得サルヘシ、要スルニ滿洲帝國ノ礎ヲ基底トシテ
 對外的ニハ蒙古民族ヲ保護シ或ハ其ノ文化ヲ高メ又對內的ニハ其
 ノ土地制度ヲ繕トシ此ノ上ニ築カレタル王公ト旗民トノ身分的懸
 隔關係ヲ緩トスル封建的搾取機構ヨリ旗民ノ解放等興安邊疆者カ貢
 ヘル複雜ナル諸懸案ノ解決ニ當リテ蒙旗ニ關スル限り省境ノ内外
 ハ一體トシテ聯綿考慮セラルヘキモノテアリ此ノ點蒙旗行政ノ可
 及的屬人主義カ主張ヲラレオハナラナイ、即チ旗自治制ノ復活、
 或ハ縣内ナラハ蒙人自治區、自治村等ノ方法ニ依ルコトヲ待ヘシ
 (二) 獨立ノ可能性ノ問題

獨立ノ可能性如何ハ多分ニ相對的ナ問題テアル。行政團體ノ存立
 ノ重要ナル條件ノ一ツタル政治組織ノ瞭然存在スルコトハ既述ノ
 如クテアル、茲ニハ其ノ行政客體トシテノ面積、人口、財政狀態ニ
 於キ其ノ屬スル黑龍江省各縣ノソレト對比シテ其ノ占ムル地位ヲ

附記

一、本表ニ於ケル黒龍江各縣ノ平均其ノ他ノ算出ハ「滿洲國年報」ニ
 依ル
 二、財政收入額ノ事、杜旗金額ハ大同二年度收入決算額ニシテ黒龍江

財政 收入額	人口	面積 平方 里	杜旗
一三〇八 圓	三〇、九四〇 人	六、七二六、三〇	旗
四、四二八 圓	七八、一四一 人	九五九三、三四	黒龍江省各縣平均
九、三〇 %	一八、三三八 %	二九、六三三 %	杜旗ト同等若クハ之ヨ リ以下ノ狀況ニ在ル 數並其ノ全數ニ對スル パーセント
百分比ノ基數二九	百分比ノ基數四七	百分比ノ基數四六	備 考

表示スヘシ

省各縣ノソレハ大同元年度豫算「地方款收入額」ニ依ル
 三、正税ニハ興安省各旗ノソレトノ對比カヨリ理論的ナルヘケレト
 エ其ノ真憑スヘキ資料ニ乏シ
 三、杜旗獨立ニヨル泰康縣ノ設置
 泰康縣ヲ廢止シ其ノ境域ハ隣接各縣ニ合併ヤシムルヲ適當ト思料
 ス其ノ細目ニ涉リテハ改竊立案スヘキモ大綱ニ即シテハ富科石橋
 氏「泰康縣出張師監」参照ノコト

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a ledger or statistical table. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.

CL
NO. 25170

ITW-1

